

釧路市のまちづくりについて

1 釧路市まちづくり基本構想の策定について

「釧路市まちづくり基本構想」策定にあたって

- 現在、釧路市では、新しいまちづくりの指針として「釧路市まちづくり基本構想」の策定作業を行っています。
- 「釧路市まちづくり基本構想」には、これまで推進してきた「都市経営戦略プラン」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」など今後のまちづくりに重要な計画の理念を取り入れたものにしていきます。
- このパンフレットでは、それらの計画について概要を説明いたします。

2 釧路市まちづくり基本条例について

- 釧路市では、「市民が主体のまちづくり」を実現するために、まちづくりを支える人たちの役割を明らかにし、基本的なルールを定める「釧路市まちづくり基本条例」をつくり、平成 27 年 10 月に施行されました。
- 「釧路市まちづくり基本条例」には、まちづくりに関する基本理念・基本原則や市民の皆さんの権利、市の責務をはじめとする全 29 条からなりますが、大きなポイントは次の 3 点です。

【釧路市まちづくり基本条例の 3 つのポイント】

① 情報共有～まちづくりを支える皆さんが同じ情報を共有する

例えば・・・ ⇒ 広報くしろなどの市からのお知らせや町内会の回覧板を読んでもみる 等

② 市民参加～共有した情報を元に、積極的にまちづくりに参加する

例えば・・・ ⇒ 町内会活動や避難訓練に参加する、市政懇談会に出席してみる 等

③ 協働～まちづくりを担う市民、議会、市長・職員がそれぞれの役割を果たしながら協力し合う

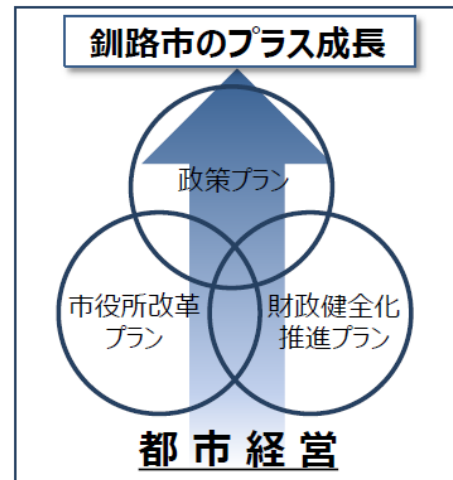
3 釧路市都市経営戦略プランについて

(1) 釧路市都市経営戦略プランの全体像

○釧路市では、将来にわたって持続的に発展していくため、将来を見据えた「都市経営」の基本理念のもと、

- ・「財政健全化推進プラン」(平成 22 年度策定)
- ・「市役所改革プラン」(平成 23 年度策定)
- ・「政策プラン」(平成 24 年度策定)

を一体とした「釧路市都市経営戦略プラン」を策定しました。



※「都市経営」の視点とは

⇒ヒト、モノ、カネ、情報といった限られた地域資源を効率的、効果的に組み合わせて、地域の課題を解決し、プラス成長を目指す釧路市の取り組みのこと

【都市経営戦略プランの構成】

① 財政健全化推進プラン

～市の財政が抱える将来的不安の解消と経常的収支不足への対応のためのプラン～
⇒財政収支試算、経常的収支不足の解消（事務事業や手数料の見直し 他） 等

② 市役所改革プラン

～釧路市が都市を経営していくために、「市役所が変わる」ためのプラン～
⇒市役所、仕事の「見える化」、「釧路市のことを考える職員」の育成 等

③ 政策プラン

～釧路市の特性を生かし、「選択と集中」によって施策の重点化を図り、プラス成長を目指すためのプラン～
⇒自立的な発展に向けた都市づくりの方向性を4つの“実践ビジョン”で重点化

政策プラン 4つのビジョン

【ビジョン1】

地域資源の価値を高め域内循環させる地域経済

人・モノ・お金・情報などあらゆる地域資源を生かした「域内循環（※1）」の取組と「外から稼ぐ力（※2）」の強化 等

【ビジョン2】

地域を担う人材の育成と雇用

生産年齢人口が減少しても未来の釧路市を支えられる実力を備えた人材の育成 等

【ビジョン3】

みんなが安心して暮らせる都市づくり

平時から大規模災害等の対策を意識した防災・減災の取組、コンパクトなまちづくり 等

【ビジョン4】

世界に開き東北北海道をつなぐ戦略的拠点都市

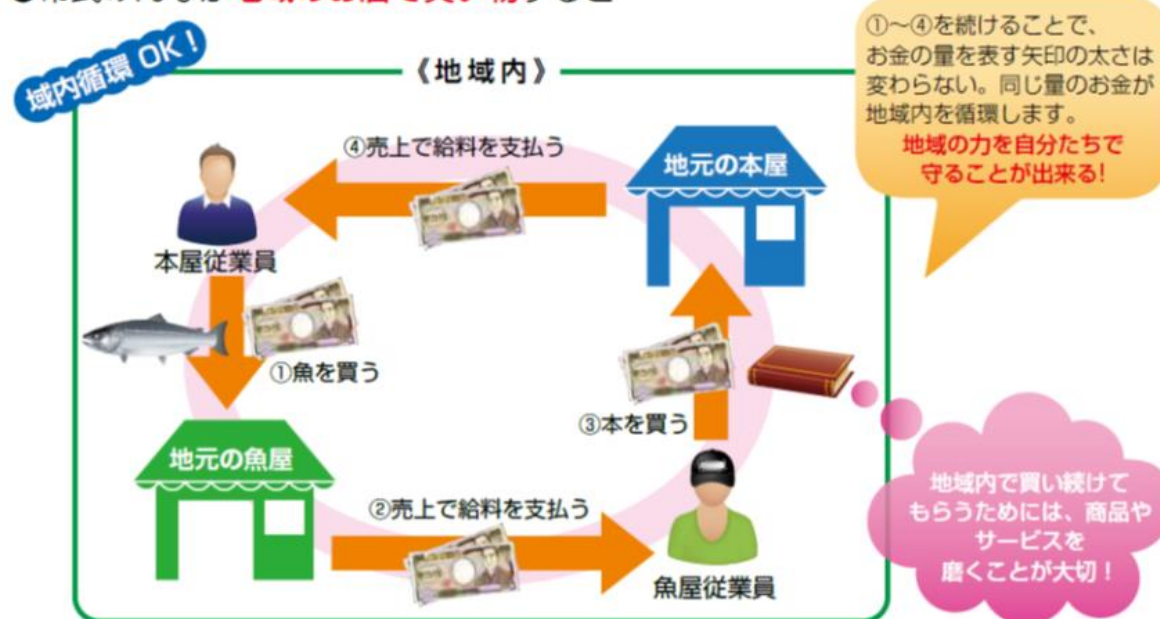
「観光、食、環境」を中心に、釧路管内、釧路・根室圏、東北北海道を視野に入れた、釧路市の拠点機能の充実 等

※ ビジョンの実践には、「自助、共助、公助（※3）による市民協働」を基本とします。

※1：「域内循環」とは

市民や企業が必要なモノをなるべく地元企業から購入し、地域のお金を地域内で循環させ、外に逃がさないようにすること。そうすることで企業と従業員がお互いに給料や雇用を支えあうことができます。

●市民みんなが地域のお店で買い物すると…



※2：「外から稼ぐ」とは

地域の外に対してモノを売って稼ぐ、また、地域の外に住む人々が釧路地域に来て消費してもらうことで稼ぐこと。外から稼いだお金は「域内循環」によって市民の皆さんに波及していきます。

※3：「自助・共助・公助」とは

- 自助：自らの生活は自らが選択し責任を持って行動すること
- 共助：個人のみでは対応できないことを住民が相互に助け合うこと
- 公助：自助・共助では限界あるいは非効率な場合に行政が住民からの付託を受け必要な行政サービスを行うこと

- 釧路市の人口は、1980年の22万7,234人をピークに減少を続けており、2040年には約10万6,000人と大幅に減少すると推計されています。
- このまま人口減少が進むと、少子化の加速、都市機能の縮小、次世代の担い手の減少、雇用・経済活動の縮小などの影響が懸念されます。
- そこで、釧路市では、人口減少社会に立ち向かうための「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年度に策定しました。

【まち・ひと・しごと創生総合戦略の構成】

人口ビジョン ～今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望～

人口の将来目標	目指すべき将来の方向
13万8千人（2040年） <small>※このまま人口減少が続くと 仮定した場合の推計値：10万6千人</small>	釧路市にとって特に影響の大きい「社会減（転出者数が転入者数を上回る）」に歯止めをかけ、親になる世代に釧路に定着してもらうことが重要

総合戦略

～人口ビジョンを踏まえた今後の基本目標、施策の基本的方向、具体的な施策～

目指す都市像

未来への『希望』輝く、ひがし北海道の拠点・くしろ

最優先課題

「域内循環」と「外から稼ぐ」取組の推進などにより、力強い経済基盤を構築し雇用の創出などを図り、親になる世代を確保して急激な人口減少に歯止めをかけます。

重点戦略

- ① 『わかもの』の希望がかなうまち・くしろ ⇒地域の「しごと」の増加と雇用機会の拡大、市内外から就学した学生の釧路への定着 等
- ② 『女性』の希望がかなうまち・くしろ ⇒女性が活躍できる環境づくりや女性の就労支援、妊婦・出産の負担軽減のための母子保健事業の充実 等
- ③ 『すべての人の『住み続けたい』という希望がかなうまち・くしろ ⇒医療・介護・福祉等のサービス充実に向けた環境整備・人材確保、自然災害に備えた防災体制の強化
- ④ 『来たい・住みたい』と思えるまち・くしろ⇒釧路の優れた自然文化を活かした「世界一級の観光地域づくり」や長期滞在事業の推進 等